



年 組 名前

道新でワークシート

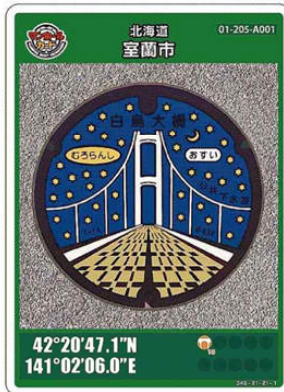
西胆振初 マンホールカード

室蘭と登別の両市は、全国的に人気の「マンホールカード」を製作し、8月11日に配布を始める。西胆振では初めて。カードは自治体ごとに絵柄が異なり、現地でしか入手できない。愛好家呼び込み、観光の活性化につながる狙いがある。

(生田憲)

室蘭市のカードは、白鳥大橋に工場夜景をイメージした光をあしらった図柄で、日本夜景遺産に選定されたことも紹介している。4千枚を製作し、室蘭観光協会（海岸町1）で配る。この図柄のマンホールのふたは、今年6月の大橋の

室蘭市



白鳥大橋と工場夜景をイメージした室蘭市のカード（同市提供）

来月配布 観光振興図る

開通20周年を記念して製作された。19日現在、市内幸町や中央町の57カ所に設置されている。

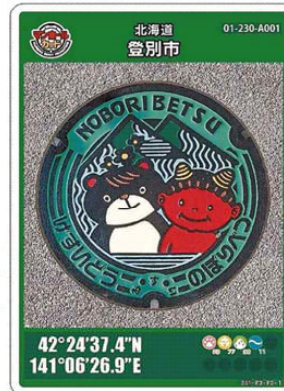
同市下水道施設課の坂本克巳課長は「下水道の役割を知ってもらい、観光振興にもつなげたい」と話す。

登別市はJR幌別駅西口に1994年に設置したふたのデザインを採用した。

登別温泉の二天シンボルの鬼とヒグマが入浴している絵柄。2千枚を製作し、市役所第2庁舎下水道グループ（土日祝日は本庁舎直室）で配布する。

マンホールカードの愛好家は、全国各地を回ってカードを収集する人が少なく

登別市



温泉につかる鬼とクマをあしらった登別市のカード（同市提供）

ない。京都府などが昨年10月に開いた下水道のPRイベントには、新作のカードを目当てに前年比2割増の750人が来場。このうち府外の人が同7・3倍増の360人もいた。府水環境対策課の担当者は「イベント後も府外からもらいに来る人が多く、北海道から訪れた人もいた」と話す。



マンホールカード日本下水道協会などでつくる団体「下水道広報プラットホーム」（東京）が2016年に考案した縦9センチ、横6センチの紙製カード。自治体で作製し、同団体に登録する。表面にご当地デザインを施したマンホールのふたを、裏面に説明を記す。配布は無料で、1人1枚まで。

登別市は海と山に囲まれた自然豊かな市です。市のイメージにもなっている登別温泉は日本を代表する温泉地であり、1日1万トンの湯量と数多くの泉質が湧出していることから温泉のデパートとも呼ばれ、国内外から多くの観光客が訪れます。そんな温泉地登別温泉のシンボルとなっている鬼と熊が作製されたデザイン（作者名「中島くさく」）は公募によって選ばれました。今回制作したこのマンホールカードのデザインのように、家族や友人お揃いで仲良く温泉に浸かりに来て下さいね。美しい温泉地を是非お楽しみください。（「地産地消でつなぐ」～D.V.の森・青森）

2018年7月19日朝刊室蘭・胆振版（記事は再編集しています）

- ①室蘭市、登別市のカードはそれぞれ何枚作製されましたか。
- ②マンホールカードが観光振興に効果がある、ということを読者に伝えたいという意図が感じられる段落はどこでしょう。段落の初めの5文字を書き抜きましょう。
- ③昨年10月の京都府などが開いた下水道PRイベントの府外参加者「360人」について考えましょう。
 - a) 記者は、この「360人」を多いと感じていますか。それとも少ないと感じていますか。また、それはどこから分かりますか。
 - b) この「360人」をあなたは多いと思いますか。それとも少ないと思いますか。あなたの考えと、その訳を書きましょう。